

中学校知的障害・情緒障害特殊学級生活単元学習指導案

日 時：平成16年9月29日（水）

5校時

対 象：2年女子3名（知的2・情緒1）

3年女子3名（知的1・情緒1・その他1）

合計6名

指導者：

場 所：

1. 単元名 「文化祭を成功させよう」

～ちょボラに挑戦！ちょボラをしよう～

2. 単元について

(1) 生徒観

今年度は知的障害、情緒障害学級ともに新入生がなく、昨年度から一緒の2、3年の女子だけの学級構成になっている。一人一人の生徒は、「明るく、元気に、さわやかに」の学級目標のもと、それぞれの目標に向かって生活しており、一人で学級にすることが多かったDさんも、中学校生活に慣れてきたことや人間関係が広がり、学級の友だちとの交流に広がりが見られる。また、休憩時間や放課後には、通常学級の友人が訪れ、学級内だけではなく、所属する部や通常学級と余暇活動を行っている。

人間関係が広がると同時に、様々な問題も発生するが、その課題を解決していく方法を学んでいくことが社会性をのばしていくことになると受け止め、問題を起こさないように配慮するということより、課題解決の手だての場面を的確に捉えて、支援していくことを心がけている。自分で考え、自ら判断し、決断していく力をつけていくことが、失敗しても何度でもやり直せばよい、大切なことは失敗しないことではなく失敗を次の生活の礎にしていくことであることを学んでいきたい。また、特殊学級に在籍していることで、どちらかというと、支援・援助の対象になることが多く自ら進んで他の人のために何かをするという機会が少ない。

そこで、自分の出来ることを自分なりにしていくことの社会貢献活動の体験を重ねることで、自分も社会の一員として出来ることがあり、必要とされている人間であることを感じる事が出来る考えた。そのことで、自己有用感が高まり、生き生きと生活していくようになることを願って本単元を設定した。また、社会貢献活動を身近なものとしてとらえていくために、「ちょボラ」という福祉委員会からの提案を受けて、そのことばを使用し、より身近なものとしてとらえて生徒とともに取り組んでいきたい。

生徒名	学年・性	生活の様子
Aさん	中2・女 知的	誰とでも明るく接することができ、友人も多い。言語が不明瞭な部分があり、話したいことを思い通りに伝えることができないことがあるが、自分のやりたいことを、やりたいようにやり遂げる力があり、学校生活を楽しくしている。友人のために何かをすることが好きである。
Bさん	中2・女 知的	聞こえに不自由さがあるが、補聴器の使用により日常生活に支障なく暮らしている。受け身的な生活が身に付いていて、自分から進んで行動をおこす機会が少ないが、小学校時代からの仲のよい友達があり交流を深めている。
Cさん	中3・女 知的	中3になりリーダーとしての自覚が芽生え、周りに配慮しながら行動することができるようになった。交流学級や部活の友達が増えて、話題が豊富である。状況把握に優れ、友達のために援助してあげようという積極性がある。
Dさん	中2・女 情緒	中学校生活に慣れ、見通しをもって生活できるようになった。自分の思い通りにならないうと納得できず固まって動けなくなることはまだ時々見られるが、関わられる人が多くなり、会話も弾むようになった。気持ちが向けば、他のために働く意欲はある。
Eさん	中3・女 情緒	高校進学を強く意識するようになり、意欲に燃えて頑張る日と、先を考えて不安にならないうと生活時間が学校の生活の約半分にまで増えている。自分中心の考えが強く、理解はするが他のために何かをしようとする気持ちが低い。
Fさん	中3・女	夏休み後に希望する高校の進路に関する教育相談を受け、その場で「過去は問わな」といって高校の先生の助言で開き直って、中学校生活に責任をもって生活するこくが難しい状態になっている。しかし、みんなのために支援したり援助する意欲が高く進んで行動することがよくできる。

## (2) 題材観

本校は文化祭を「文化祭」と名付け、日頃の学習成果の発表の場と位置付けて生徒主体の活動を中心に取り組んできている。生徒は今年度もこれまでの伝統を引き継ぎながら、文化祭にむけて、生徒会を中心に合唱・学級展示に意欲を見せている。

本学級での文化祭の取り組みの目標は、交流学級での合唱と、学級展示においては、作業・美術作品の展示と共に、作業学習や生活単元学習で取り組んできた学習活動の取り組みをまとめることとし、石鳥谷中学校の生徒の一員としての自覚と誇りをもち、一人一人が目標達成に向けて一生懸命に活動に取り組んでいくこととした。

さらに、例年この機会を生かし、全校生徒会テーマや学年のテーマを受けて、21世紀に生きる自分たちが何をどのようにしていったらいいのかを具体的に体験して、まとめ、発表する学習に取り組む学習活動を計画してきた。そこで今回は「ちょボラに挑戦」として、社会貢献活動に取り組んでいくこととした。このことは、地域の一員としてよりよく生きようとする意識を高め、これからの生活を豊にしていくために重要なことだと考えた。

これまで生徒は、総合的な学習の時間などを通して小学校から単発的に施設の訪問などを行ってボランティア活動の体験を行ってきたが、継続して行うことについてはまだ十分な体験がない。そこで、「何か自分にもできることはないか」という視点をもちながら社会貢献活動について学び、21世紀に生きる人間として日常生活の中で、自ら実践していく気持ちを育てていくことを大きなねらいとして学習活動を展開していきたい。

具体的には以下の通りである。

文化祭に見通しをもって取り組み、石中生として自覚と誇りをもって活動に取り組むこと。

地域の施設で社会貢献活動を体験し、体験して学ぶこと。

体験したことをまとめること。

施設で社会貢献活動を体験するときの申し込みの手続きや相手の立場を考えて行動すること。

日常生活の中で継続して社会貢献活動を自ら実践していくこと。

## (3) 指導観

社会貢献活動の体験を考えた時、大切なことは継続すること、自分から出来るようになることだと考えた。そのためには、机上の論だけではなくまず体験してみることがその第一歩になる。そこで、地域の施設で、意図的に計画的に体験することを通して、他のために働くことの重要性を感じさせたい。地域には、地域の中で生きていくことを考え、地域の特性を生かして開かれている施設が多くある。教育機関と福祉機関が連携をとって、生徒一人一人が将来にわたって地域の中で生きていくためには、自ら進んで社会貢献していくことが大切であることを学んでいくことは非常に価値のあることだと考えた。はじめは意図的に計画的になかば体験させられたことであっても、体験を通して学ぶことで意欲的に自ら進んで活動していく態度を育成できると考えた。

ちょボラは、高齢者施設や福祉施設でのボランティア体験ばかりではなく、環境に関すること、手話や点字などその関わり方は数多くある。単元を通して、まずはやってみること、続けていくことが大切で、そこから人のために何かをすることはつまりは自分のためにすることにつながり、人は地域の中で生かし生かされていることを身をもって学んでいくことを願い、本単元を展開していきたい。

## 3. 指導目標

- (1) 文化祭の成功にむけて、目標達成のために自分らしく、意欲的に活動することができる。
- (2) 地域の施設での社会貢献活動の体験を通して、学級の友達と協力して、学んだことをまとめることができる。
- (3) 体験を通して学んだことを日常生活の中で継続して実践していこうとする気持ちをもつことができる。

4. 活動計画 (全23時間・・・本時6時間目)

期日	曜	行事予定	活動名	主な活動内容
9/15	水	1234 道	オリエンテーション (1時間) 文化祭について知ろう	・昨年度の文化祭について想起し、今年度の石中祭の内容について知る。
9/16	木	壮行式 1234 道壮	文化祭にむけて目標をたてよう (1時間)	・文化祭の成功に向けて、目標をたてる。 ・ちょボラ体験について知る。
9/17	金	12345 総	ちょボラってなに？ 調べてみよう。(2時間)	・ちょボラについてインターネットや書籍を使って調べる。 ・実際に調べる祭の方法について学習する。
9/24	金	報告会 報 234	ちょボラに挑戦！ 「銀河の里」の理事長さんにインタビューしよう (1時間)	・「銀河の里」の理事長さんにちょボラの体験についての話を伺う。
9/29	水	地区教研 1234	ちょボラに挑戦！ 計画を立てよう。 (1時間・・・本時)	・「銀河の里」でちょボラとして何が出来るかを知る。 ・ちょボラの計画を立てる。
			ちょボラに挑戦！ 「銀河の里」で体験しよう (2時間～5時間)	・各自の計画に沿って、ちょボラの体験を行う。
10/13	水	12345 総	ちょボラに挑戦！ 体験したことをまとめよう (2時間)	・「銀河の里」でのちょボラ体験をまとめる。
10/15	金	12345 総	ちょボラに挑戦！ 自分でやれるちょボラを選んで計画しよう (1時間)	・日常的に取り組んでみたい、ちょボラの体験を自分で探し、実行のために計画する。
			ちょボラに挑戦！ 自分で考え体験しよう (2時間)	・各自の計画に沿って、ちょボラの体験を行う。
10/20	水	12345 総 学	ちょボラに挑戦！ 体験したことをまとめよう (2時間)	・自分で取り組んだ、ちょボラについてまとめる。
10/29	金	短1234 総総	文化祭はいよいよ明日 準備完全大作戦(2時間)	・見通しをもって文化祭の準備を行う。
10/30	土	文化祭(5時間)		
11/3	火	123456	文化祭の反省とまとめ (1時間)	・文化祭をビデオを視聴しながら振り返り、反省する。 ・良かった点、改善すべき点についてまとめ、次の活動につなげる。

5. 生徒の実態と指導目標とその手だて

生徒名	実態	期待する姿	手だて
Aさん 中2・女 知的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おしゃべりはよくするが、みんなの前で発表することに苦手意識が強い。</li> <li>・手先が器用で、細かい作業を手際よく出来る。</li> <li>・笑顔がよく、人のために働く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔で人に話しかけることが出来ることや、手先の器用さを生かしてちょボラに取り組む。</li> <li>・自分の考えをみんなの前で発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意なことを生かすことの大切さを伝える。</li> <li>・成就感や成功体験を活動を通して学び、みんなのために働くことの大切さについて知らせる。</li> </ul>
Bさん 中2・女 知的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優しい言動で、周りの雰囲気のを和やかにする。</li> <li>・聞こえの不自由さのために、十分に理解できていないことでもわかったこととして済ませてしまう。関わり方が、受け身である場面が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優しく接することが出来ることを通して、ちょボラに取り組む。</li> <li>・誰かのために自ら行動することの大切さを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意なことを生かすことの大切さを伝える。</li> <li>・成就感や成功体験を活動を通して学び、みんなのために働くことの大切さについて知らせる。</li> </ul>
Cさん 中3・女 知的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に対する苦手意識は強いが、状況を把握して場の雰囲気を読みとり、その雰囲気に合わせた言動をとることが出来る。</li> <li>・片付け方が好きで、得意である。依存的な言動から、進んで行動できるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを考えて、ちょボラに取り組む。</li> <li>・人のために行動することが、大切なことで、自分のためになることに気がつく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来ないと訴えたときには、その時は出来なくてもいいことを伝えるが、あきらめずに次に挑戦するように繰り返し関わっていく。</li> <li>・出来ないからしない、したくないからやらないという結論の出し方ではなく、どうしたら出来るようになるかを考えさせる。</li> </ul>
Dさん 中2・女 情緒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的な能力が高く、作業もよくできる。人との関わり方が困難であったが、多くの人と関わりがもてるようになってきた。</li> <li>・他のために何かをしようという気持ちはまだ低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「銀河の里」に行ってみる。</li> <li>・自分で出来るちょボラを考え、継続して実行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意なことを生かすことの大切さを伝える。</li> <li>・成就感や成功体験を活動を通して学び、みんなのために働くことの大切さについて知らせる。</li> </ul>
Eさん 中3・女 情緒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の場が広がると同時に、受け止め方がまだ自己中心的なために、友達とトラブルになることが多い。</li> <li>・依存的な生活の様式をなかなか変えられないが、1年生の時に比較すると社会性は大きく伸びている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょボラを体験することで、自ら進んで行動することの大切さを学ぶ。</li> <li>・自分で出来るちょボラを考え、継続して実行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来ないと訴えたときには、その時は出来なくてもいいことを伝えるが、あきらめずに次に挑戦するように繰り返し関わっていく。</li> <li>・出来ないからしない、したくないからやらないという結論の出し方ではなく、どうしたら出来るようになるかを考えさせる。</li> </ul>
Fさん 中3・女	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉関係の仕事に対する関心意欲が高い。他のために行動することに喜びを感じる。</li> <li>・学習に対する苦手意識が強く、学校生活に十分適応しきれない面はあるが、生活能力は十分にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意なことを生かして、ちょボラをすることに積極的に取り組むことが出来る。</li> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の立場を考慮して、必要とされる活動について自分なりの考えをもって取り組むことが出来るように個別に働きかける。</li> </ul>

## 6. 本時の授業について

### (1) 目標

「銀河の里」で必要とされるちょボラは何かについて知る。

「銀河の里」でのちょボラ体験の計画を立てる。

計画したことを発表する。

### (2) 授業に当たって

本時は、23時間計画の6時間目に当たる。本時の学習をすすめるにあたり、前時までに「銀河の里」の理事長さんに、インタビューを行って、必要とされる活動について具体的なイメージが持てるように配慮してきた。授業においては、その時のビデオを視聴して、インタビューで学んだことを想起し、必要な活動について整理して理解することが出来るように支援したい。さらに、ちょボラは相手のことを考えて活動することが大切であることなどを伝えながら、人と人とが関わっていく際の配慮事項にも必要に応じて伝えていきたい。

### (3) 個人の目標

生徒名	学年・性	本時の目標
Aさん	中2・女 知的	・「銀河の里」で必要とされるちょボラについて知り、自分でやりたい活動を決めることができる。 ・計画したことを支援を受けて発表することができる。
Bさん	中2・女 知的	・「銀河の里」で必要とされるちょボラについて知り、助言を受けて自分でやりたい活動を決めることができる。 ・計画したことを発表することができる。
Cさん	中3・女 知的	・「銀河の里」で必要とされるちょボラについて知り、自分でやりたい活動を決めることができる。 ・計画したことを支援を受けて発表することができる。
Dさん	中2・女 情緒	・「銀河の里」で必要とされるちょボラについて知る。 ・どうしたら活動できるかについて考える。
Eさん	中3・女 情緒	・「銀河の里」で必要とされるちょボラについて知る。 ・どうしたら活動できるかについて考える。
Fさん	中3・女	・「銀河の里」で必要とされるちょボラについて知り、自分でやりたい活動を決めることができる。 ・計画したことを発表することができる。

